



謹賀新年

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。  
旧年中は、議会活動や地域活動において大変お世話になりました。みなさまのおかげで、昨年も地域や議会でも多くの活動に取り組むことができました。感謝申し上げます。



一昨年より世界中で流行している新型コロナウイルス感染症は、2年たった今でも私たちの生活に大きな影響を及ぼし、分断さえ産む危険性も秘めています。感染やワクチン摂取などで差別をしない社会が求められています。過度な消費や一極集中がもたらした危険性を考え、農山村の大切さを再認識し、持続可能な未来を子どもたちへ残すため、みなさんと一緒に行動していきたいと思えます。

佐久市においても、環境問題、人口減少、持続可能な地方自治の課題などにおいて、より一層みなさまのご協力やご参加をお願いいたします。昨年は佐久市長・市議会議員選挙が無投票に終わり、新たな任期が始まりましたが、無投票であったことを真摯に受け止め、今まで以上に市民の皆さまに身近に感じられる議員・議会であるよう努力してまいります。

本年もみなさまのご健康とご多幸を心からお祈りします。

吉川友子

会派「みらいの風」の

お話し会を開催しました！

■11月に望月、岸野、臼田の3カ所で市民のみなさんとお話し会を開催し、佐久市全体のことやそれぞれの地域の課題などたくさんのご意見をいただきました。私たちの任期も始まったばかりですので、いただいたご意見を参考にし、これからの議員活動に活かしていきたいと思えます。お話し会ではざっくばらんに意見交換をし、私たち議員も個人の考えなどを述べることができ、とても良い機会だったと感じています。■下記の日程でさらに2カ所でお話し会を開きますので、お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

1月22日(土) 10:00~12:00

浅間会館 会議室3・4

1月22日(土) 15:00~17:00

浅科会館 2階会議室4・5



臼田会場



岸野会場



望月会場

増え続けるニホンジカと

山の被害状況を視察しました  
一般質問をするにあたり、生息密度が高いと言われている現場を視察してきました。ニホンジカは木の皮を剥ぎ、冬の間は落ち葉や木の実などを食べるため、生息密度が高いと山が再生できない状態になってしまいます。山に必要な草や多様な木々、腐葉土がなくなると、土砂崩れしやすくなり、災害の危険性も増えます。ニホンジカが増えた原因はさまざまと言われますが、温暖化というのも一つの要因です。

シカが山や農地へ与える被害を考えると、頭数制限と同時に、どうしてシカが増えるのかも考えなければなりません。人間が環境に与えている影響です。ぜひみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

吉川友子の一般質問

第四回定例議会が11月24日から12月20日まで開催され、吉川議員は一般質問に登壇し、1、ニホンジカについて、2、学校と保育所の給食について、を質問しました。

ニホンジカ対策

市として本格的取り組みを

(吉川) ニホンジカによる農業への被害は大変な状況です。私も、仲間とやっている畑がシカ被害に合い、農作物がほとんど採れませんでした。専業農家にとっての被害はもっと深刻です。森林への被害もとても深刻な場所があります。

市ではニホンジカの生息密度の高い地域を把握しているのかどうかを伺います。生息密度が高くなると、普段好まない植物を食べたり、餌とシカの数のバランスがとれなくなり、様々な被害がでてきます。長野県第二種特定鳥獣管理計画(第5期ニホンジカ管理)によると、ニホンジカの生息分布は県全体も佐久市も平成22年度以降、拡大したままです。

現在の被害の状況、生息密度の高い地域の把握、生息分布域を縮小させるための対策について伺います。

(経済部長) ニホンジカは全国において分布域が拡大している状況です。人工林や天然林の剥皮被害、樹皮はぎとりなどがあり、造林直後の幼木から成木まで幅広い範囲での被害が発生しています。

農地への被害状況については食害や踏圧による被害が確認されており、それらは生産者の作付け意欲の低下を招き、耕作放棄地の増加が懸念されています。

市では生息地域の独自の調査は行っていませんが、県が法に基づき作成した、長野県第二種特定鳥獣管理計画により把握しています。市ではこの計画をベースにニホンジカ等の被害防止の対策に努めています。

生息分布域を縮小させるための対策についてですが、市では令和元年度からニホンジカ等の捕獲目標頭数を従来の1250頭から2000頭へ大幅に拡大して実施しています。今年度においても目標が達成できる見込みです。

(吉川) パネル写真を見ていただきます。①ズッキーニ畑、ほぼ全滅。従業員への支払いをどうしたらいいかという悩みも聞いています。

②樹皮剥ぎ。きれいに皮がむけているので新しく樹皮剥ぎされたもの。こうして剥がれたところから、菌が入って木全体が枯れてしまうのです。

③シカの道。蹴り上がった部分は崩れています。

④シカ道。水が多い山はシカが通った道が水路のようになっていて、大雨が降ったら土砂崩れのような災害につながる。シカが増えていることによって山の災害が起きることもある。(裏ページへ)



シカで全滅したズッキーニ畑  
佐久市布施式部にて

⑤シカの密度が高い地域。夜行性ライトをあてると目が光り、圧倒されます。

⑥長野県の生息分布域。ほぼ真っ赤になり、これだけ全県で生息が確認されているという状況です。

森林への影響はシカが通っている道から土砂崩れが起きていて、近年増えている局地的な大雨の際の災害が心配されます。また、落ち葉まで食べてしまうので、腐葉土がない山になり、保水力がなくて災害につながります。生息密度が高いと、これまで食べないと言われていた植物まで食べてしまい、生え始めの木まで食べてしまう、落ち葉と一緒に木の実まで食べてしまい、多様性のない山になってしまふということが危惧されます。状況を把握するために、ぜひ専門家と一緒に現地を見ていただきたいが、検討できますか？

(吉川) 密度が高くなる理由も考えていただきたいです。よく言われるのが、二ホンシカが生息、繁殖しやすい環境がある、温暖化により子鹿が冬を越して



望月高原牧場の夜 シカの群れ

いる、捕獲が追いついていないなどです。どのような対策をとるにしても、まずは現場を知るために生息調査が必要だと考えますが、現在市では二ホンシカの生息状況調査を行っていますか？

(経済部長) ライトセンサスという手法を用いた個体推定調査を来年度以降に実施することになっていきます。

(吉川) 来年度はライトセンサスの調査を、佐久市内で行うと言ったことで良いですか？

(経済部長) 佐久市内、望月高原牧場付近でということですね。(その後、現地調査がすぐに開始され、経済部長以下職員数人、県鳥獣対策専門員、池田生物多様性研究所あーすわーむ研究員が望月高原牧場の現場に入り、吉川友子も同行した)

(吉川) ニホンシカのことには市民も大変関心を持ち、その対策を期待しています。まず情報の共有が大切で、実態や被害状況を市としても正確に把握することが重要です。

### 学校・保育所給食

#### 調理業務の民間委託は再検討を

(吉川) 調理業務の民間委託についてパブリックコメントも行い、職員さんたちにもアンケートをとったということでした。意見募集には何件の応募があり、またどのような意見が寄せられたかお聞きします。また調理業務の委託について、今後どのように進めていくつもりなのか伺います。

(学校教育部長) 本年9月1日に民間活用方針案をお示しし、パブリックコメントにより意見募集を行いました。その結果、市民のみならず27名から項目数で合計93件のご意見等をいただきました。提出された主な意見は、食育、アレルギー食に対する不安、職員体制に対する不安、安心安全な給食提供への不安、市民への意見聴取に対する要望、責任所在に対する不安、偽装請負に対する不安などでした。9月、5つの

給食センターの栄養士、調理員へ民間委託方針案の説明を行い、無記名によるアンケート調査を行いました。説明会の参加者は80名でアンケートの回答者は66名、回収率82%でした。アンケートでは委託を行う際に留意すべきこと、また転職をするかなど6問の選択項目がありました。「丈夫な体を作るにはバランスの良い食事が大切ということ」を教える、「世界の子どもたちの現状や食糧不足、食べ物の大切さを伝えて欲しい」「食文化や郷土料理に対する理解を深めさせて欲しい」などを望む声が多くありました。また、職員数の減少、アレルギー食の対応に対する不安、民間事業者の労働条件についての不安、利益重視に伴う給食の質の低下に対する不安などの意見がありました。不安や懸念の意見が多く寄せられています。市としては説明不足な面もあり、十分に理解されず、不安が先行したと考え、給食調理業務の民間委託の導入予定については今後市民のみならず関係職員への不安の払拭を丁寧に行い、理解を深めていくよう努めていきたいと考えており、導入のタイミングについては一旦ごまきり、再検討していきます。

(福祉部長) 本年9月に保育所給食調理業務の民間活用方針案について意見募集を行い、市民のみならず人から合計24件のご意見をいただきました。食育アレルギー食に対する不安、人員配置の抑制といった職員体制に対する不安、市民のみならずへの意見聴取に対する要望、責任の所在に対する不安、偽装請負に対する不安などがありました。また9月に公立保育所15園の保育士、調理員を対象に当方針案について説明を行い、無記名によるアンケート調査を実施しました。325人中307人の職員が回答し、回収率は94%です。回答内容としては、保育所給食民間委託に対して、民間の専門的な技術や知識が活用できる、実績ある業者であれば信頼できる、といった肯定的な回答をした職員が一定程度い

ましたが、一方で委託による給食の質の低下に対する懸念や、食育アレルギー食に対する不安、保育士と調理員の連携に対する不安などの回答も多く寄せられました。導入の時期については、一旦ごまきり、見定めの上で改めて示していきたいと考えています。

(吉川) 2023年から当初の計画が延期という状況ですね。確認ですが、延期ということは市民のみならずからの意見や職員のみならずからの不安という意見を踏まえて決定したということでしょうか？

(学校教育部長) パブコメや職員のみならずへのアンケートの中で不安という意見や説明が不十分であったというところもあり、不安の払拭に努め、民間委託の導入についてはいったんごまきりという判断です。

(吉川) パブコメや職員のみならずのアンケートを尊重して延期したということは主目的です、ありがたいことです。今後給食問題だけでなく、市政全般もぜひ市民のみならずのご意見を聞きながら丁寧に進めていただきたいと思えます。

(市長) 今後どのように議論をしていくかは、まだ決定していません。給食にどういったことを求めるかということを考えていきます。全国的には7割以上が民営化を行なっている中で、そこにはどのような利点や問題点があるか、検討材料になると思えます。

(吉川) これを機会に、どうすれば子どもたちにとって最もいい給食になるのか、そこから丁寧な議論を重ねていければと思います。

### 望月・浅科給食センター

#### 統合計画も再検討を

(吉川) 公共施設マネジメントの個別施設計画の素案にて浅科センターの集約化という案が示されました。こちらについても

パブコメを募集していましたが、その結果について伺います。

(学校教育部長) パブリックコメントとしていただいたご意見では、浅科給食室を残してほしい、また老朽化が集約の理由にあげられているが、浅科の給食センターを改修、補修で乗り越えられないか、などできるだけの策を用いて、残していただきたいのご意見でした。

学校給食浅科センターは、老朽化への対応として、令和8年度までを目途に学校給食浅科センターの機能を同望月センターへ集約化することを考えたわけです。

(吉川) 浅科給食センターは小学校のランクルームにつながっていて、調理室の中が見えたり、子どもたちにとってはワクワクするスペースだと思っんです。また、浅科は地元で採れたおいしい五郎兵衛米を、専門の職員さんが炊いて出していると感じました。浅科で勤務する先生方も、浅科のご飯はおいしいと言いますし、子どもたちのごはんの残食も少ないとのこと。そういった浅科の文化や誇りがどのように引き継がれていくのか、というのも大切な部分です。

(学校教育部長) 今後、議会の説明や市内各地区での住民説明会を行なって市民のみならずのご意見を引き続き丁寧に聞き、計画策定していきたいと考えています。

(吉川) 関係者に説明してから計画案を固めていくというやり方が必要だと思えますが、ぜひ早め早めに関係者の方々に説明いただいて、知らないうちに計画が決まったということがないようにいただきたいと思えます。

■議会活性化特別委員会で埼玉県秩父市と群馬県桐生市へ行き、議員定数、議会モニター制度、まちづくりの検討会について学びました。

■総務文教委員会では、可見市、加賀市、美濃加茂市へ行き、「いじめ防止条例」について学びました。